

## 第2

## まちの将来像

### 1 将来像

まちづくりの基本理念に基づいて、以下の将来像を掲げます。

小さな<sup>まち</sup>田舎からの「生命地域」宣言

“いのち彩る里 飯南町”

- (1) 豊かな自然を活かしたまち
- (2) 安心して暮らせるまち
- (3) 住民の参画によって育てるまち

#### (1) 豊かな自然を活かしたまち

「生命地域」の考えに基づき、“守る” “活かす” の観点から自然に根ざした健康なまちづくりに取り組み、また、地域に継承されている歴史・里山文化を大切にし、四季折々の風景を満喫することができる町を次世代へ引き継ぎます。

そして、“もてなしの精神”をもって都市住民に接し地域の隠れた魅力を PR することで、地域の応援団や自然を活かした産業づくりに結びつけ、地域の活性化につなげていきます。

自然を守る

自然を活かす

歴史・里山  
文化を活かす

## (2) 安心して暮らせるまち

子どもから高齢者まで全ての住民が安心して暮らせるために、身近な生活環境の整備や教育・医療・福祉の充実を図るとともに、高齢者福祉や子育て支援な

どを担う新たな組織づくりや高齢者をはじめとする「田舎の達人」の知恵や活動を社会に活かす仕組みづくりに努めます。

生活を  
支 持 する

特色を活かした  
教育を進める

生活を取り巻く  
環境を整える

## (3) 住民の参画によって育てるまち

過疎化や少子高齢化が進み、これまで培ってきた地域の自治や地域活動は弱体化しつつあります。こうしたなか、住民一人ひとりが、まちを育てていくという心構えと行動力をもつことが重要です。

行政も健全な財政運営に努めるとともに、住民と連携したまちづくりに取り組みます。

住民が主体と  
なって動く

住民と行政との  
連携を進める

地域のひと・  
ものを有効活  
用する

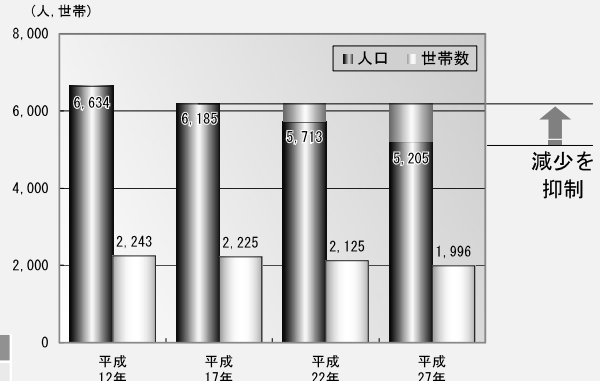
## 2 将来のまちの姿

### ◆ 総人口・世帯数 平成 27 年は 5,200 人、2,000 世帯に

本町の将来人口の見通しは、平成 22 年で 5,700 人、平成 27 年で 5,200 人と想定します。

10 年後には 1,000 人減少すると推計されますが、若者の定住を推進し、減少を抑えることを目標とします。

	平成22年	平成27年
人口の見通し	5,700人	5,200人
世帯数の見通し	2,100世帯	2,000世帯

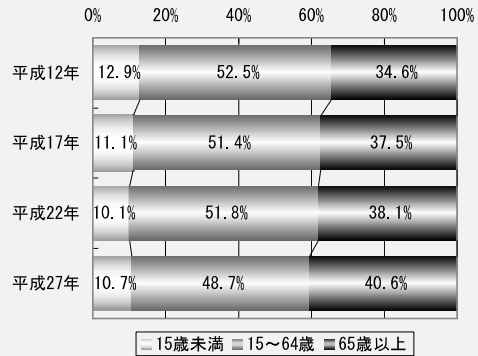


※平成 12 年と平成 17 年の住民基本台帳による実績値 (10 月 1 日現在) を用いて推計しています

### ◆ 年齢別人口 平成 27 年は高齢化率が 40%に

将来の年齢区分別人口の見通しは、平成 27 年で 15 歳未満が 560 人 (10.7%)、15~64 歳が 2,530 人 (48.7%)、65 歳以上が 2,110 人 (40.6%) と推計されます。

年齢別人口の見通し	区分	平成22年	平成27年
	15歳未満	570人	560人
15~64歳	2,950人	2,530人	
65歳以上	2,180人	2,110人	

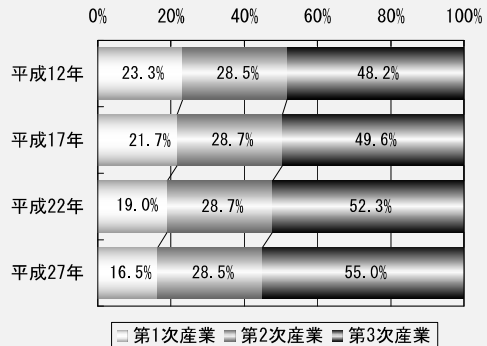


※平成 12 年と平成 17 年の住民基本台帳による実績値 (10 月 1 日現在) を用いて推計しています

### ◆ 就業別人口 平成 27 年は第 3 次産業就業者が 55%に

将来の就業別人口の見通しは、平成 27 年で第 1 次産業が 490 人 (16.5%)、第 2 次産業が 850 人 (28.5%)、第 3 次産業が 1,640 人 (55.0%) と推計されます。

就業人口の見通し	区分	平成22年	平成27年
	第1次産業人口	590人	490人
第2次産業人口	900人	850人	
第3次産業人口	1,640人	1,640人	



※平成 7 年と平成 12 年の国勢調査による実績値を用いて推計しています

※推計にはコーホート変化率法を用いています。コーホートとは同じ年 (又は同じ期間) に生まれた人々の集団のことを指し、コーホート変化率法とは各コーホートについて、過去における実績人口の動勢から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法。

### 3 土地利用等の方針

#### (1) 土地利用方針

##### 里山ゾーン

- 里山としての自然の保全や活用、農業の振興を図る地域として町全域を位置付けます。

本町の最大の特徴である豊かな自然を保全する地域として町全域を位置付けます。これらの自然資源を、住民の環境学習の場、都市住民の自然体験の場として活用します。

また、この自然の中で米、りんご、やまといも、そばなど、安全で安心な付加価値の高い作物を育てていきます。



##### 商工業振興ゾーン

- 立地条件を活かし、商工業の振興を図る地域と位置付けます。

国道 54 号沿道の立地条件を活かし、商工業の振興を図ります。また交通の利便性が高い地域として、広域的な産業連携を図ります。



##### 居住集積ゾーン

- 自然環境と共生しながら、生活機能の集積を図る居住地として4つの地区を位置付けます。

周辺の自然と共生した居住地として、住民が健康で安心して暮らせる居住環境の整備や生活機能の集積を図り、定住を促進する地域として位置付けます。

#### (2) 連携方針

##### 骨格連携軸

- 町の骨格となる連携軸として、町の活性化に大きく寄与する重要な連携軸として位置付けます。

町の活性化に大きく寄与する重要な骨格軸として、国道 54 号、国道 184 号、美郷飯南線（旧邑智赤来線）を位置付け、交通機能の充実により、広く連携を図っていきます。

国道 54 号については、広島市と松江市を結び、国道 184 号は尾道市と出雲市を結ぶ軸として、都市部との交流等の役割を担っています。美郷飯南線は石見銀山街道として、地域文化の発展の役割を担っています。

##### 地域連携軸

- 町外との広域的な連携や町内の地区を結ぶ連携軸として位置付けます。

本町と周辺市町を結ぶ広域的な県道、農道など、町内においても、居住集積ゾーンをつなぎ、各機能を広く住民が享受できるよう、道路交通網の整備や情報通信網の活用を進めていき、地域間の連携を図ります。



# 飯南町土地利用構想図

